

令和7年度

「運営に関する計画」
(中間評価)

大阪市立小路小学校

令和7年11月

(様式2)

大阪市立小路小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 ・令和7年度末の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。(現在90.9%) ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 ・校内調査「学校肯定感アンケート」の6項目それぞれに対して、「はい」と回答する児童の割合を年度はじめよりも7ポイント増加させる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と学ぶ取組を各学期1回行うことを通じて、集団作りを深める。	B
指標 校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。(現在90.9%)	
取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 子どもサポートネットなど関係諸機関との連携を密に図りながら、保護者支援も含めた総合的な対応を行う。	B
指標 前年度不登校児童の改善の取組を進めていく中で、不登校児童の在籍率を前年度より減少させる。(昨年度0)	
取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】 児童が学校に行くのが楽しいと思えるような学校を目指す。そのために、児童にとって居心地が良い学校と感じられるようにポジティブ行動支援を教職員全体で取り組む。	C

指標	小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、 <u>肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。</u> （現在89.4%）	
取組内容④【基本的な方向2、豊かな心の育成】	全学年で「3つの花」（やる気、きまり、つながり）をたくさん咲かせるために、各委員会で強調週間を設け、児童の肯定感を高められるようにする。	C
指標	校内調査における『学校肯定感アンケート』の6項目それぞれに対して、「はい」と回答する児童の割合を年度はじめよりも7ポイント増加させる。（Excelを見る）	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
取り組み内容①		
いじめは絶対に許さないという方針のもと、道徳や学活の時間を活用し、児童がいじめの問題について考え話し合う機会を定期的に設けている。教職員全員がいじめ防止の意識を共有し、日常の言動や小さなトラブルにも注意を払い、早期発見と丁寧な指導に努めている。学校内だけでなく校外でもいじめを許さない一貫した指導を行い、児童一人ひとりが相手の気持ちを考え、優しい言葉遣いを心がけるよう促している。		
取り組み内容②		
不登校や登校しづらい児童に対して、教職員・スクールカウンセラー・地域の支援機関・区役所など関係機関と密に連携し、情報共有をしながら総合的に支援している。保護者とも小さな変化も共有しながら対応を進め、月1回の全職員での情報共有により手厚いサポート体制を構築している。学校だけで対応が難しい部分は、地域や行政の支援を積極的に活用し、児童の安心できる登校環境づくりを目指している。		
取り組み内容③		
全学年で「3つの花」（やる気、きまり、つながり）を増やすため、各委員会が強調週間やキャンペーンを企画し、児童の肯定感や主体性を高めている。友達の良い行動や言葉を認め合う時間を設けることで、クラスや学校全体の雰囲気が温かくなり、児童同士のポジティブな関わりが活発になっている。教職員も積極的に声かけを行い、安心して過ごせる居心地の良い環境づくりに努めている。		

取り組み内容④

児童が楽しく安心して学校生活を送れるよう、教職員全体でポジティブ行動支援 (PBS) に取り組んでいる。1 学期には給食委員会や集会委員会がキャンペーンを実施し、運営委員会主催で「小路グローバルまつり・小路っ子マダン」を開催。縦割り活動や委員会活動を通じて異学年交流やクラスの一体感が深まり、高学年が低学年を支える温かい雰囲気も育っている。PBS は 2 年目で、各委員会が協力しながらより良い学校づくりを目指している。

後期への改善点

取り組み内容①

いじめ防止には、低学年や外国にルーツがある児童にも分かりやすく伝える工夫が必要である。見ているだけの児童に「注意する勇気」を促す取り組みを拡大したい。いじめが身近に起きていることを意識させ、被害者の認識を尊重し、軽視しない共通理解を深めることが重要である。また、教職員の早期発見力を高めるため、実践的な研修の導入をしていく必要がある。

取り組み内容②

不登校児童への対応は学校だけでなく、区役所や地域の専門機関との連携を継続していく。家庭の事情に配慮し、教室外での登校や校内支援センターの導入など柔軟な対応が求められる。教職員全体で情報共有と理解を深め、児童だけでなく保護者への支援も関係機関と協力して行う必要がある。また、教職員が多様な支援方法を学べる研修の実施も必要である。

取り組み内容③

PBS の取り組みにはクラス間で差があるため、教職員間で方法を共有し、児童の意欲を引き出せるような支援を強化する必要がある。学校生活を安心して過ごせる環境作りのため、家庭や友人関係の悩みに寄り添い、教職員が情報共有を続けることが重要である。また、ポジティブ支援の定義や具体的な支援方法を再確認する必要がある。

取り組み内容④

委員会ごとに活動の進み具合に差があるため、「花の付箋」などの使い方を統一し、全体でルールを共有することで効果を高める必要がある。各委員会は計画的にキャンペーンに取り組んでおり、PBS も 2 年目を迎えている。今後は委員会だけでなくクラス内

でのポジティブな取り組みも共有していく。

(様式 2)

大阪市立小路小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 45% 以上にする。(現在 49.2%) ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も標準化得点 100 を上回るようにする。 ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 80% 以上にする。(現在 74.6%) ・令和 7 年度小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの対象学年も前年度より 2 ポイント減少させる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 朝の会や帰りの会でスピーチをしたり、学習の中で話し合う活動を積極的に取り入れることで、自分の考えや思いを整理して伝える力の向上に努める。そのための具体的な取り組み方を職員間で学び合う。 指標 校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、3 年生以上の肯定的に回答する児童の割合を 85% 以上にする。(現在 85.8%)	B
取組内容②【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 朝の学習や放課後学習、スキルアップテストにおいて、基礎的な学力の向上を図る。 指標 国語科では、音読と視写にそれぞれ月 1 回以上取り組み、プリント学習や navima での学習にも取り組む。算数科では、週 1 回のスキルアップテストに 7 枚以上合格した児童の割合を 70% 以上にする。	B
取組内容③【基本的な方向 5、健やかな体の育成】 運動・環境委員会が中心となって、休み時間の遊びを企画・運営する。 指標	B

校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。（現在89.9%）

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取り組み内容①

日直や児童によるスピーチを通して話す力・聞く力の育成を図っており、毎日の日直のスピーチなどを通じて「相手に伝える意識」や「話す内容を整理する力」が育ちつつある。ペアやグループでの話し合い活動を積極的に取り入れ、意見交換を通して考えを深める工夫を行っている。児童の発言を引き出すために問いかけを工夫するとともに、ハンドサインや聞く姿勢など、話しやすい雰囲気づくりにも配慮している。授業では「考えを書く→共有する→話し合う」という流れを大切に、話し合い活動で自分の考えを深めたり、友達の意見に疑問や感想をもったりして話し合うことのよさに気づけるようにしている。少人数での話し合いや発表ノートを使用しての意見交流を通して、感想やアドバイス、質問をし合うことで、自分の考えに自信を持つことができるようにしている。

取り組み内容②

朝の学習や放課後学習、スキルアップテストなどを継続的に行い、基礎的な学力の向上と定着を図っている。

スキルアップテストでは、毎週の取組を通して確実に力をつけており、9月時点で7枚以上合格している児童も多数いる。合格に至らない児童には、繰り返しの挑戦を認めるだけでなく、他のプリントにも取り組めるよう支援している。

放課後学習では、全教員が当番制に関わることで、児童一人ひとりの学習状況をより丁寧に把握し、つまずきへの個別支援が充実している。朝の学習やスキルアップテストなど全校での取組が習慣化し、学力の基礎を支える土台となっている。

取り組み内容③

暑さの影響で外遊びが制限される日も多くあったが、その中でも週に数回「みんな遊び」を計画し、児童が体を動かす機会を確保してきた。特に二学期からは、児童からの「もっと遊びたい」という声を受けて回数を増やすなど、遊び系の積極的な活動が見られた。係の児童が企画・運営・ルール作りなどを主体的に行うことで、自然と参加の輪が広がっている。普段は教室で過ごしがちな児童も、みんな遊びの時間には仲間と外に出て活動する様子が見られ、学級の一体感づくりにもつながっている。また、体育部ではドッジビーを導入するなど、球技が苦手な児童も楽しめるような工夫も行われており、外遊びへの参加のきっかけとなっている。一方で、鬼ごっこの際の安全面や、教室で過ごす児童と運動場で過ごす児童との分断など、今後改善していくべき点も見られる。涼しくなってきたこれからの時期には、これまで外遊びに消極的だった児童にも積極的に声をかけ、全員が楽しく体を動かせる場を引き続きつくっていききたい。

後期への改善点

取り組み内容①

話し合い活動が形式的なものにならず、目的意識をもって自分の考えを伝えられるよう、引き続き支援していく。

また、「話す力」だけでなく、「相手の意見を聞き、受け止める力」や「対話を通して自分の考えを深める力」の育成にもつなげていく。

今後は、話すことが苦手な児童への支援や、低学年からの系統的な指導の在り方についても研究・実践を重ねていく。

取り組み内容②

スキルアップテストでは、同じプリントに繰り返し挑戦しても合格できない児童もあり、今後は内容の段階化や個に応じた支援を進める必要がある。

取り組み内容③

暑さの影響で外遊びができない日が続いたため、室内でも体を動かせる遊びを取り入れる必要がある。ただし、けがを防ぐためにも、校内の安全対策を改めて見直していくことが重要である。昨年度、授業で竹馬や一輪車を紹介した際には、しばらくの間流行したこともあり、新しい遊びをどんどん紹介していくことも、子どもたちの興味を広げる一つの方法だと考える。高学年になると、委員会活動や宿題のやり直し、また教室が4階であることによる移動の面倒さなどから、外遊びをしない児童が増えているように感じる。運動環境委員会では「たてわり」での外遊びを計画しているが、学級単位でも何らかの工夫ができるとよい。今後は過ごしやすい季節になることもあり、委員会主催の遊びに加え、「挑戦状」や「遊びのお誘い」など異学年交流を促すような仕掛けを取り入れ、遊びの幅を広げていくことが望ましい。

(様式 2)

大阪市立小路小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 【ICTの活用に関する目標を設定する】 - 授業日において児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の90%以上にする。 - オンラインによる学習を年に2単位時間以上実施する。 - 令和7年度末の校内調査における ICT に関する項目に8割以上「できる」と回答した児童を95%以上にする。(現在86.5%) 【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】 - ゆとりの日を週に1回設定・実施し、自己の働き方について意識する。 - 学校閉庁日を年間5日以上設定する。 - 各種アンケート調査における ICT 活用、オンライン活用を推進する。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 ICT 支援員を活用し、週1回以上学習者用端末を使った学習をする。 指標 校内調査における「ICT活用能力チェック」に対して、設問に対して8割以上「できる」と回答する児童の割合を95%以上にする。(現在86.5%)	C
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 健康障害防止機能確認日を設ける。 指標 月末に1回、健康障害防止機能確認日を設け、一人一人が自己の働き方を確認する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取り組み内容① ・学校では学習者用端末を授業では週1回以上使い、また宿題、心の天気入力などで毎日活用している。クラスルームやTeamsなどのツールも使い、児童は少しずつ操作に慣れてきている。また、特別支援でも画像検索やタイピング学習も取り入れている。昨年度より活用は増えている。先生同士で情報を共有し、希望者向けの研修やアンケートで取り組みを振り返ることで、さらに活用を進めたいと考える。児童向けの ICT 活用アンケート(9月)で10項目に対して、8	

割以上「できる」と回答した児童は現在 86.5%となっている。

取り組み内容②

・教職員は働きすぎにならないように、勤務時間を意識して仕事をしている。ICT を使って作業を効率よく進め、早く帰れるよう工夫している。設定日に残業時間を確認することで、自分の働き方を見直すこともできている。ゆとりの日はあるが、うまく活用できていないこともある。前向きな姿勢で仕事に取り組んでいる、今後も働き方を改善する取り組みを続けていく。

改善点

取り組み内容①

・教員同士で端末の使い方や取り組みを更に共有できれば、児童の活用力も伸ばすことができると考える。また、ICT 支援員の活用を促進するために、希望者向けの研修を行ったり、アンケートで各クラスの取り組みを振り返ったりしてもよい。一方で、充電忘れの児童や故障対応が大変なことや、故障予防と防止のために児童に向けて改めて端末の扱い方の確認があればよいと思う。

取り組み内容②

・教職員の仕事は種類が多く、定時に帰るのが難しいことがある。教材研究も勤務時間内ではほとんどできず、残業や持ち帰りが必要になることも多い。そこで、仕事の分担や優先順位を見直し、負担が偏らないようにすることが大切であると考えている。会議を短くしたり、業務を整理したりする工夫をして、PTA 関連の質問は担任を通さず、PTA に直接聞けるようにする。また、教職員でなくてもできる仕事(ワックスがけなど)は外部に任せるなど、働きやすい環境づくりを進めていく。